

にじ

特集

高知医療センター開院10周年企画
~診療現場の「今」と「これから」~
第4回 循環器病センター

..... P2~5

2014年高知医療センター
研修医キャンプin 祖谷溪谷 P6

■ 地域医療連携病院のご紹介Vol.79 【医療法人 考仁会 杉本整形外科】 P7

■ 高知医療センター・イベント情報 P8

10

OCTOBER 2014 Vol.108



8/30、読売日本交響楽団のメンバーによる弦楽四重奏「読響ハートフルコンサート」が、院内ふれあいロビーにて開催されました。

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —

第4回

高知医療センター 開院 10周年企画 ～診療現場の「今」と「これから」～



循環器病センター運営委員会のメンバー

第4回 高知医療センター 循環器病センター

文責：高知医療センター 循環器病センター長 山本 克人

はじめに

2005年3月に高知医療センターが開院して、はや10年が経とうとしています。つまり、同時に開設されました循環器病センターが立ち上がって、10年の月日が流れたこととなります。

開院時には当時の副院長（元高知市民病院院長）であった大脇先生が初代循環器病センター長を兼任され、幅広い分野でレベルの高い循環器治療を提供できる体制を整えられ、当センターの基礎を築いてくださいました。その後、2006年4月からは岡部学先生（現中央手術センター長）がセンター長を引き継がれました。先生は、現在の循環器病治療の潮流といっても良い「身体にやさしい侵襲の少ない

治療」を先駆的に推し進められ、その上で循環器内科と心臓血管外科が「ハートチーム」として、さらに協力し合えるような体制を作り上げてくださいました。

さて、本年4月からは、私がセンター長を引き継がせていただくこととなりました。諸先輩方が築き上げられた業績をもとに、現スタッフが丸となって、「これから」の循環器病センターを発展させ、優れた技術で質の高い医療を提供したいと考えています。

それでは、循環器内科、心臓血管外科、心臓リハビリテーション部門の紹介をしたいと思います。

循環器内科

文責：循環器内科 科長 細木 信吾



現在、循環器内科は、心血管インターベンション専門医、不整脈専門医、心エコー専門医、リハビリテーション専門医を含む7名のスタッフ、3名の後期研修医の総勢10名（1名産休中）で日常循環器診療に当たっています。

当院は、高知県の「急性心筋梗塞治療センター」構想の中核施設でもあり、ドクターヘリと循環器ダイレクト電話を駆使し、循環器疾患が疑われる救急患者さんを、『紹介患者さんを絶対に断らない』をモットーに、24時間いつでも広く受け入れ、迅速に心臓カテーテル検査・治療を含む緊急対応ができる体制をとっています。急性期治療は勿論、急性期を脱した患者さんに対するリハビリテーションの重要性にも注目し、心臓リハビリテーション専門医を中心に、早期社会復帰を目指し、心リハにも積極的に取り組んでいます。

虚血性心疾患については、2013年は、冠動脈造影検査は1177例、冠動脈インターベンション（PCI：ステント留置術、バルーン血管形成術、ロータブレータ等）は404件でした。緊急対応に力を入れている結果として、当科のカテーテル検査・治療数は、徐々に増加傾向にあります。治療成績についても、血管内超音波、OCT、FFRというモダリティを駆使し、日々進化する高度なカテーテル治療を、急性心筋梗塞や不安定狭心症等の急性期疾患、慢性完全閉塞病変を含めた慢性冠疾患に実践することで、良好な成績をあげています。

不整脈疾患に関しては、電気生理学的検査、カテーテル心筋焼灼術を四国で最も早くから実施し、毎年、

約60件の検査・治療を行っています。ペースメーカー治療は徐脈性不整脈のみでなく、植込み型除細動器（ICD）による致死的不整脈治療や、両心室ペースング（心臓再同期療法）による心不全治療も積極的に行っており、2013年では上記の手術施行件数は合計113件でした。

本年、ハイブリッド手術室（カテーテルと外科手術、両方に対応できる手術室）が完成しました。これまでは衰弱していくのをただ見守るしかなかった外科手術困難な重症大動脈弁狭窄症患者さんに対するステント治療（経皮的大動脈弁留置術：TAVI）も行っていく予定です。

自治体病院として高知県全体の循環器診療をリードしていくためには、病診連携が非常に重要と考えています。当科は、高知県内の安芸地域の診療所と『こうち東部循環器アライアンス』という定期的なカンファレンスを持ち、幅広い循環器診療知識を共有しながらお互いの顔が見える信頼関係を構築することで、強力な病診連携を進めています。地域の診療所で疾患を早期に発見し、何かあればいつでも遠慮なく当科にご紹介いただき、当科で治療後には地域に速やかに帰ることができるシステムを目指しています。

私たち、循環器内科は、高度な最先端循環器治療を実践し、病診連携を通して地域完結型の高度医療を実現しています。「全ては患者さまのために」を基本理念に、これからも高知県民の命の「最後の砦」の自覚の元、循環器疾患の予防・治療に全力を注ぎます。



循環器内科医師一同



心臓カテーテル室のメンバー

文責：中央手術センター長 岡部 学

心臓血管外科



当心臓血管外科チームは、「体に優しく安全性の高い低侵襲心臓血管外科手術」をモットーに、日々の診療を積み重ねてまいりました。

当院開設以来の心臓血管外科手術件数は、心臓疾患 1,756 例（虚血性心疾患 786 例、心臓弁膜症 736 例、先天性心疾患 116 例、他の心疾患 118 例）、大血管疾患 881 例（胸部大動脈 388 例、腹部大動脈 493 例）、末梢血管 594 例、静脈疾患 61 例、その他 215 例、合計 3,507 例で、全国トップクラスの結果でした。

従来の心臓手術は、人工心肺装置を使って心臓を止

めておこなうため、体や心臓に負担の大きい大変な手術というのが常識でしたが、当科は、人工心肺装置を使わず心臓も止めずおこなう「体にやさしい低侵襲心臓手術」に早くから積極的に取り組んでまいりました。心臓弁膜症に対しましては、自分の弁を残して心臓を作り直す弁形成手術を全国に先駆けて行い、トップクラスの手術件数と成績を収めてまいりました。また、高齢者に多い大動脈瘤に対しましては、開胸・開腹を行わず、人工血管をカテーテルで血管内に留置するステントグラフト治療を積極的に行い高齢者大血管手術の低侵襲化にも努めてまいりました。

●心拍動下低侵襲冠動脈バイパス手術

「心拍動下低侵襲冠動脈バイパス手術」は、天皇陛下が受けられた手術として一躍有名になりましたが、当科では標準術式として現在までに既に 931 名の症例にこの手術を行っております。手術危険率も 0.2% (2/931) と極めて低く、当科の「心拍動下低侵襲冠動脈バイパス手術」の高い完成度と安全性は全国で高い評価を受けてまいりました。今後もスキルアップを怠らず、より完成度の高い手術を追求してまいります。

●大動脈瘤ステントグラフト治療

当科は、低侵襲大動脈瘤手術として 2008 年よりステントグラフト治療開始し、現在までに 215 例（胸部大動脈瘤 96 例、腹部大動脈瘤 119 例）の大動脈瘤症例に対してステントグラフト治療を行い、その内訳は、待期手術 193 例（胸部大動脈瘤 82 例、腹部大動脈瘤 111 例）、破裂緊急手術症例 22 例（胸部大動脈瘤 14 例、腹部大動脈瘤 8 例）でした。90 歳以上の患者 14 例を含む従来型手術の困難な重症症例に対してステントグラフト治療を行いました。手術成績は、手術危険率が待期症例 0.5%、破裂緊急症例 9.1% と極めて良好でした。

●心臓弁膜症手術

「心臓弁膜症治療」におきましては、「ただ単に悪い弁を人工弁に取り替える」のではなく、弁病変の形態や心機能の状態に応じて一人一人に最適の手術治療を行ってまいりました。弁逆流症例に対しては自己弁温存弁形成手術を第一選択に、現在までに 403 例の弁形成手術をおこなってまいりました。特に、Flexible ring を用いた僧帽弁逆流に対する手術では、対象症例の 98.3% と極めて高い僧帽弁形成手術成功率を達成しております。また、心停止手術に耐えられない超低左室機能弁膜症症例に対しては心臓を止めない心拍動下心臓弁膜症手術を行い、さらに開心手術そのものに耐えられない虚弱・超高齢の心臓弁膜症症例には、非開胸心拍動下の「低侵襲心臓弁カテーテル治療」を行ってまいりました。

当科の今後

当院は、従来型手術とカテーテル治療が同時に行える先進高機能手術室「ハイブリッド手術室」が 7 月に完成し、既に運用が開始されております。このハイブリッド手術室の完成・運用に伴い、今までは治療不可能とされていた疾患に対するハイブリッド手術治療が開始されております。「経カテーテル的大動脈弁移植術 (TAVI: transcatheter aortic valve implantation)」をはじめ、今まで治療困難・救命不可能とされていた超重症心臓血管疾患に対して、外科・内科・コメディカルが一体となったハートチームの心臓血管外科部門として先進ハイブリッド手術治療を発展させてまいります。また、従来型の治療では対応しきれない超低心機能を合併した心臓移植クラスの重症心不全症例に対しては、埋め込み型人工心臓による治療を積極的に行ってまいります。

心臓リハビリ

文責：画像診断科 科長 西本 美香

心血管疾患の患者様の QOL 向上と再発、再入院を予防するためにおこなわれる活動が心臓リハビリです。当院では治療入院されたほとんどの患者さんが心臓リハビリを受けて退院されます。

専従の理学療法士、看護師を中心に医師、薬剤師、栄養士、検査技師、MSW で構成される多職種チームで患者さんの入院から退院（転院）まで包括的に関わります。

急性期、術後早期に ICU・CCU でベッド上リハビリから開始し、一般病棟のベッドサイド、訓練室へと進んでいきます。

心臓リハビリの訓練室は心臓血管外科・循環器内科の入院フロアにあり、ベッドサイドのリハビリから訓練室でのリハビリにスムーズに移行できる体制となっています。

退院前には心肺運動負荷試験などの評価に基づいて退院後の運動や生活強度を設定し、また二次予防を目的とした生活指導や疾患への理解を深める指導をおこないます。

高度の心不全や退院後の活動に不安の残る患者さんには外来での通院リハビリも行っています。

開院後より病棟内で心臓リハビリを始める準備をすすめ 2006 年 9 月より開始、訓練室を配置し 2007 年 6 月施設基準Ⅱを取得、2010 年 4 月施設基準Ⅰを取得しました。日本心臓リハビリテーション学会認定の心臓リハビリテーション指導士は 12 名（医師 1 名、看護師 7 名、理学療法士 4 名）となっております。徐々にスタッフも増え、2008 年と 2013 年を比較すると処方件数は 276 件から 457 件に、実施単位数は 5,607 単位数から 8,308 単位数に増加しています。

高齢患者さんが多くリハビリの需要が増す中、今後もよりよいものを提供できるよう努力を続けてまいります。

■ 2008 年－2013 年心臓リハビリ実績

| 年 | 2008 年 | 2009 年 | 2010 年 | 2011 年 | 2012 年 | 2013 年 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 処方 | 276 | 332 | 342 | 407 | 434 | 457 |
| 実施 件数 | 3,942 | 3,693 | 3,382 | 4,319 | 5,314 | 5,243 |
| 単位数 | 5,607 | 5,194 | 5,010 | 7,014 | 8,507 | 8,308 |

心臓リハビリスタッフ一同



9 階 おだやかフロアスタッフ一同



おわりに

今回は、以上の 3 部門についてのみ紹介しましたが、循環器病センターは、医療局、看護局、薬剤局、医療技術局、栄養局、事務局などからの多職種のスタッフで成り立っています。当センターのスタッフはそれぞれの専門性を活かし、協力し合うことで、より質の高い医療の提供が可能となっているものと思います。さらに、救命救急部門やカテーテル部門のご協力のおかげで緊急性の高い治療もスムーズに行えております。

不整脈専門医が私一人だと不足していること、心臓リハビリテーションのスタッフをさらに充実させたいこと、など人員の面では若干の課題はありますが、10 年を経てもますます成熟した循環器病センターとなっていると思われます。また、現在若い元気なスタッフも多く、活気も充分感じられる今日この頃です。より幅広い分野で、よりレベルの高い医療を提供していき、高知県の患者さんのために精一杯努力する所存でありますので、今後も循環器病センターをよろしく願いたします。

高知医療センター
循環器病センター長 山本 克人



2014年 高知医療センター 研修医キャンプ in 祖谷溪谷

8月23日(土)、24日(日)と、毎年恒例である研修医キャンプに行ってきました。今年のキャンプ地は祖谷溪谷でした。

1日目は、早朝に医療センターを出発し吉野川でラフティングをしました。雨続きの8月だったにもかかわらず、この日は天候に恵まれ、雨で増水し普段にもまして激流となった吉野川でスリリングな川下りを体験できました。ラフティングの後は、お昼ご飯に名物祖谷そばを食べました。しっかり遊んで食べた後は、溪谷の縁にあるコテージに移動し夜はみんなでバーベキュー!美味しいお肉についついお酒がすすんでしまいました。その後はコテージでトランプをしたり、花火をしたり、夜遅くまで盛り上がりました。

二日目はゆっくり起きて、かずら橋へ。蔓(かずら)でできた頼りない吊り橋を前に、高所恐怖症でなかなか進めない人や、ふさけて橋を揺らす人も!何とか全員で渡りきる事ができました。その後は帰り道に、大豊名物のひばり食堂で大盛りランチを食べ、大満足で帰宅の路につきました。キャンプの2日間、1・2年次みんなが時間をともにすることで、さらに仲良くなる事ができました。

(文責: 研修医 池田・出原)





医療法人 孝仁会 杉本整形外科

〒781-8104 高知市高須2丁目18番19号
TEL : 088-884-5100
FAX : 088-884-5137

(診療科) 整形外科・リハビリテーション科・
リウマチ科

| 診療受付時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 9:00 ~ 12:00 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | △ |
| 14:00 ~ 17:30 | ● | ● | ● | △ | ● | △ | △ |

(休診日: 木曜午後、土曜午後、日曜祝日)



医療法人 孝仁会 杉本整形外科は、昭和 62 年 10 月に開院しました。外傷から脊椎、関節の変性疾患まで運動器の問題全般に幅広く対応しています。また、日本リウマチ財団のリウマチ登録医としてリウマチ診療にも力を入れています。さらに、整形外科では高度の腰痛や下肢骨折に対するギブス固定、高齢者の脊椎圧迫骨折など、どうしても入院治療が必要な場合があり、地域医療に貢献したいとの思いから有床診療所にこだわって診療しています。当院では常に丁寧で親切な対応を心掛け、十分な説明をしていくことを信条としています。

高：貴院が現在力を入れていることを具体的にお聞かせください。

(杉：杉本整形外科、高：高知医療センター)

杉：高齢者の膝の痛みの主たる原因である変形性膝関節症の保存的治療に力を入れています。各種ヒアルロン酸製剤の関節内注射を主体に内服、運動療法、理学療法を組み合わせ、最近の知見や新しい内服薬を積極的に取り入れて活用しています。日常生活指導を含め、完全な除痛は困難であっても、症状の軽減を図り、多くの患者さんからいい評価を頂いています。骨粗鬆症に対しては、DEXA 法による骨密度測定を行い、それぞれの患者さんに適した治療を選択しています。



杉本康三院長とスタッフのみなさま

高：地域との連携や他医療機関との連携について貴院での取り組みなどお聞かせください。

杉：整形外科では対処困難な他科疾患は地域の先生方に大変お世話になっています。手術適応の患者さんや保存的治療では限界の患者さんには、必要に応じて基幹病院に検査や手術のお願いをしています。また、術後は逆紹介して頂き、ご本人のご意向を伺いながら当院で引き続き転入院して頂いて、後療法を行い、日常生活への復帰を手助けするなどの医療連携をしています。

高：今後、貴院が目指されていくことなどをお聞かせください。

杉：整形外科の対象疾患の多くは加齢による影響が大きく、完全な除痛や治癒は困難なことがほとんどです。年齢とともに機能は必ず低下していきます。その程度をいかに少なくして、生活の質を保つか、一人の患者さんとの長いお付き合いを通して、少しでも痛みの軽減を図り、機能障害の改善に努めていきたいと考えています。

また、手術や更なる検査が必要な場合には対応して頂ける医療機関への紹介、転送を準備し、当院に来ればなんとかしてくれると思って頂けるように、地域で信頼される医療機関となるよう努力していきたいと考えています。

高：最後に高知医療センターとの連携についていかがですか？

杉：整形外科の先生方はもとより、放射線科での画像診断のお願い、また当院では対処できない他科疾患診療のお願いなど、様々な依頼に迅速によく対応して頂き、大変感謝しています。また、急性期の治療終了後や術後には逆紹介して頂き、日常生活への復帰まで当院で入院治療をさせて頂くなど大変心強いと感じています。当院は医療センターから車で 10 分程度の距離に立地しており、今後とも身近な医療機関として存在して頂きたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございました。

| 月 | 日 | 曜 | 高知医療センター イベント情報 10月～ | | | | |
|---|---|--|---|---|--------------------------|---------------------|---------|
| 10月 | 4 | 土 | 高知医療センター 看護局集合研修 他施設公開研修プログラム (事前申込要) | | | | |
| | | | 研修名 | 「口腔内のアセスメントと口腔ケア」 | 場所 | 高知医療センター 1F 研修室 2・3 | |
| | | | 時間 | 13:00～16:00 | | | |
| | | | 講師 | 高知学園短期大学 医療衛生学科 歯科衛生士 大野 由香 氏 | | | |
| | 主催: 高知医療センター・看護局 教育担当 申込先 FAX: 088 (837) 6766 | | | | | | |
| | 5 | 日 | 高知県周産期医療研修会 (参加費不要・事前申込不要) | | | | |
| | | | 内容 | 講演1. 「リトルエンジェル支援事業(熊本県極低出生体重児支援事業)の生い立ちと今後の課題」 講演2. 「セミオープンシステムが周産期医療を変える 一地域連携強化と医療の標準化一」 | 場所 | 高知医療センター2F くらしおホール | |
| | | | 時間 | 9:00～12:00 | 対象 | 医療従事者・一般 | |
| | | | 講師 | 熊本市民病院 新生児内科 部長 川瀬 昭彦 氏 / 日本医科大学 産婦人科 教授 中井章人 氏 | | | |
| | お問い合わせ: 高知医療センター・経営企画課 TEL: 088(837)3000(代) | | | | | | |
| | 8 | 水 | 高知医療センター 看護局集合研修 他施設公開研修プログラム (事前申込要) | | | | |
| | | | 研修名 | 「便によるスキントラブルを防ぐ」 | 場所 | 高知医療センター 1F 研修室 2・3 | |
| 時間 | | | 17:30～19:00 | | | | |
| 講師 | | | 皮膚排泄ケア認定看護師 本山 舞 氏 | | | | |
| 主催: 高知医療センター・看護局 教育担当 申込先 FAX: 088 (837) 6766 | | | | | | | |
| 19 | 日 | 高新・高知医療センターがんセミナー・2014 (参加費要、事前申込要) | | | | | |
| | | 内容 | 「小児がんの診断と治療」 | 場所 | 高新文化教室(RKC高知放送南館3階 37号室) | | |
| | | 講師 | 高知医療センター 小児科 小児診療部長 西内 律雄 氏 | 時間 | 10:30～12:00 | 対象 | 一般(40名) |
| | | 主催: 高新新聞社、高知医療センター 協賛: アフラック高知支社 主管: 高新新聞企業 お問い合わせ: 高新文化教室 TEL: 088(825)4322 (受講料9,850円/全12回、1,500円/1回) | | | | | |
| 24 | 金 | 高知医療センター 看護局集合研修 他施設公開研修プログラム (事前申込要) | | | | | |
| | | 研修名 | 「放射線治療を受ける患者の看護」 | 場所 | 高知医療センター 1F 研修室 2・3 | | |
| | | 時間 | 17:30～19:00 | | | | |
| | | 講師 | がん研有明病院 がん看護専門看護師 後藤 志保 氏 | | | | |
| 主催: 高知医療センター・看護局 教育担当 申込先 FAX: 088 (837) 6766 | | | | | | | |
| 25 | 土 | 第31回 高知医療センター 地域がん診療連携拠点病院公開講座 (事前申込不要・参加費無料) | | | | | |
| | | 内容 | 「肺がんについて」 「肝胆膵外科治療の最前線」 「知っておきたい三つのがん」 | 場所 | 安芸市商工会館 大ホール | | |
| | | 時間 | 14:00～16:30 (開場 13:30) | | | | |
| | | 講師 | 呼吸器内科 科長 浦田 知之 氏 / 消化器外科 医長 岡林 雄大 氏 / 総合診療部 部長兼科長 血液内科・輸血科 科長 上村 由樹 氏 | | | | |
| 主催: 高知医療センター・経営企画課 TEL: 088(837)3000(代) | | | | | | | |
| 26 | 日 | 平成26年度 高知県周産期セミナー (事前申込不要・参加費無料) | | | | | |
| | | 内容 | 「FGRの周産期管理に関するUPDATEとDILEMMA」 | 場所 | 総合あんしんセンター | | |
| | | 時間 | 10:00～11:30 | | | | |
| | | 講師 | 大阪府立母子保健総合医療センター 産科 石井 桂介 氏 | | | | |
| 主催: 高知医療センター 経営企画課 TEL: 088(837)3000(代) | | | | | | | |

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

数年来の熱中症多発の夏が、今年は気象災害のニュースに取って代わられたような8月でしたが、彼岸に入り、ようやく穏やかな秋の気配が感じられる昨今ですが、読者の皆様におかれましては恙なくお過ごしでしょうか？

今月号の表紙は先日、本院で開催された読売日本交響楽団メンバーによる「読響ハートフルコンサート」でのスナップ写真です。がん患者さんらへの支援事業を行っている公益財団法人「正力厚生会」のお力で、当日は入院患者さんなど 200 余名の聴衆を前に、ヴィオラの二宮隆行さんなど、NHK の連続テレビ小説「あまちゃん」の主題歌の演奏に参加したという4人のメンバーによる弦楽四重奏が1階ふれあいロビー一杯に響き渡りました。少しでもその時の様子をお伝えしようと写真を選んできましたが、音色がお耳に届くでしょうか？ (深田順一)



平成26年10月1日発行
にじ10月号(第108号)
毎月発行
編集者: 深田 順一
発行者: 武田 明雄
印刷: 株式会社高陽堂印刷

発行元:
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL: 088 (837) 3000 (代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp